

ひろがれ

2018
第42号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

新しい出会い

大きな可能性

ものづくり工房 h-i-c o b a e

●トビックス

ケアハウスと学生寮の
合同避難訓練

●食を通じて地域とつながる

親子おやつ時間

●たて糸よこ糸

NTTクラリティ株式会社

●えすぴがれっそ

ジヨブアシストいんくる

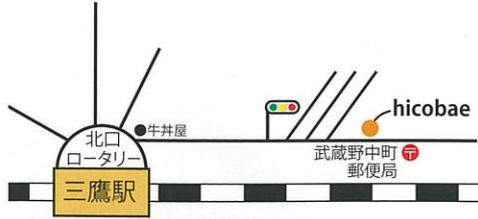
梅本佳奈子

ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

樋口加織

●福々刻々

他者を理解するべし



ものづくり工房 hicobae

住所：武蔵野市中町 1-28-10
 月・水・金 10:00～15:00
 三鷹駅北口より徒歩 5分
 hicobae へのお問い合わせはデイセンター
 山びこへ 電話：0422-54-5102

新しい出会い 大きな可能性

ものづくり工房 hicobae



●だるまセット 500円

雑貨屋&ギャラリースペース

hicobaeで販売している作品はすべてが手作り。織物のストールやコースターなどの小物、オリジナルペイントのスニーカーやTシャツ、着物生地のアクセサリーなど、一点物の作品が並びます。不定期ですが、「織物展」や「和紙展」などの展示会も開催しています。

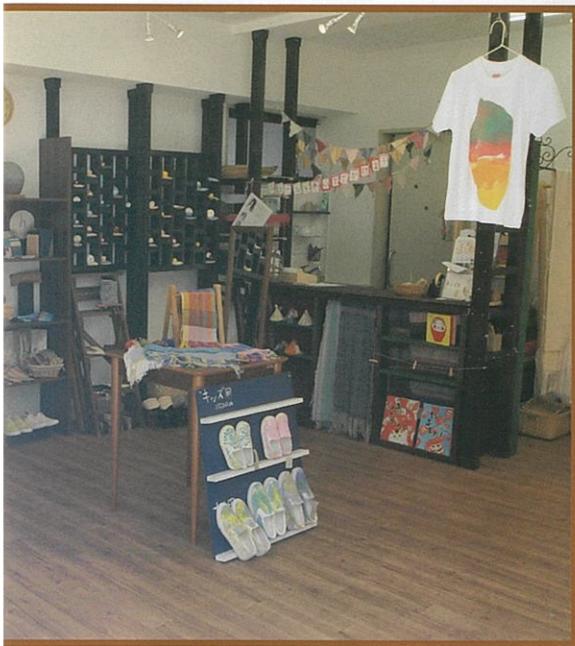


ワークスペース

月曜日は絵を描く「アートデイ」、水曜日は機械織りに取り組む「織物デイ」、金曜日は小物を作る「クラフトデイ」を行っています。ご利用者がいつも通っている場所ではなく、また違う雰囲気の中で創作活動を楽しむ機会になっています。アートデイでは外部講師を招き、アドバイスを受けながらアート活動を行う時間もあります。



●ウッドビーズネックレス 500円



一点物
です!

●スニーカー
大人 2500円
子供 1500円

ものづくり工房 hicobae は三鷹駅北口から歩いて5分ほどのところにある雑貨店。2014年12月にオープンし、今年で4年目を迎えます。当法人の生活介護3事業所、デイセンター山びこ、デイセンターふれあい、ワークセンター大地の作品を展示・販売しています。ギャラリーとしての機能も兼ね備え、年に数回、展示会を開催しています。また、ご利用者が創作活動をするワークスペースにもなっており、雑貨店の店番をしながら創作活動を行っています。

hicobae (葉一ひこばえ)とは切り株からひょっこりと伸びた新芽のことをいいます。hicobae という場所での「新しい出会い」と、そこから生まれる「大きな可能性」を願ってこの名前をつけました。その願いが少しずつ形になってきていると感じています。地域の方がhicobaeに訪れ「素敵な作品ばかりですね。また来ます」と常連さんになったり、「手芸が好きだからお手伝いができれば」と作品を加工するボランティアとして活躍したりと、その形はさまざまです。ご利用者にとってもhicobaeは、心地の良い空間になっています。



●革トレー 1200円

スペースの貸出

ウラベノリコさんが開催する「むさしの絵画クラブ」に、毎月1回程度、hicobaeのスペースをお貸ししています。そこで描かれた作品は2017年の武蔵野アールブリュットにも出展されました。年に1度、絵画展も行われています。



地域とのつながり

三鷹のツインタワーで開催されているマルシェやクリーンセンターでのエコマルシェ、その他にも地域の様々なイベントに参加しています。11月18日は関前公園となりのグリーンパーク緑地で行われる「わくわくフェスタ」にワークショップとして出店する予定です！



学生さんとの協同

武蔵野美術大学の学生さんにhicobaeの窓ガラス装飾のデザインと施工をお願いしました。ご利用者と一緒に、装飾部材を作ったり、窓ガラスに飾りを貼ったりする作業を行いました。hicobaeの店舗情報がお客様にわかりやすく伝わっただけでなく、お店の雰囲気がいっそう華やかになりました。

装飾された窓がこちら！



●ウッドビーズのヘアゴム 200円

ボランティアさんとのかわり

毎週金曜日は地域の手芸のボランティアさんがhicobaeに集まり、織り生地を加工した小物づくりを行っています。水曜日は織物の整経（縦糸を張る作業）をするボランティアさんがいらっしゃっています。ご利用者とボランティアさんの交流の場にもなっています。



●鍋つかみ 500円

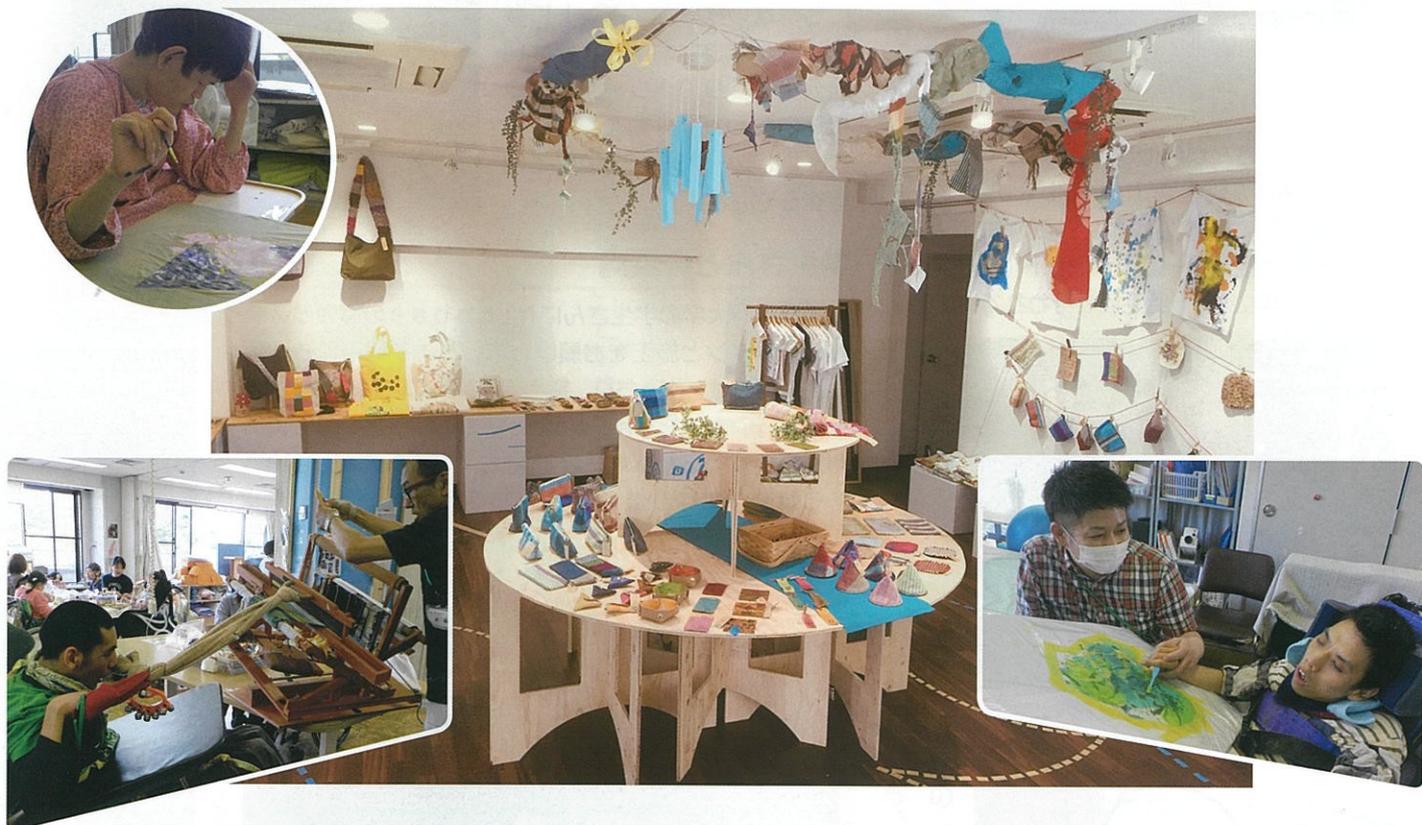


●織物コースター 200円

「アルバイトに行く」という気持ちで作業意欲を燃やす方、地域の方との交流を楽しみにされている方など、ご利用者のいつもとは違う表情が見られる瞬間がたくさんあります。一つひとつ思いのこもった手づくり雑貨が並び、ご利用者の笑顔に出会える「ものづくり工房hicobae」。皆さん、ぜひ足を運んでみてください。

〈hicobae 主催〉 輪っかになろう展

開催しました!



●お花ピアス 800円



●押し花メッセージカード 200円

7月27日〜30日の4日間、吉祥寺にある「ギャラリー永谷2」にてhicobae主催の「輪っかになろう展」を開催しました。この季節には珍しい台風などと呼び寄せながら、大勢の方にお越しいただきました。その数350人以上。福祉の関係者だけでなく、福祉になじみのない方も立ち寄ってくださったのが印象的でした。

この「輪っかになろう展」は、たくさんの方のつながりがあって初めて成り立ちます。そのつながりは、つながりを生み、そうして大きな輪になっていくのだと思います。様々な人々が大きな「輪っか」が街のいたるところでできるように、そんな思いで作品展を開催しました。

ここで展示販売されている小物たちは、日々の活動の中でコツコツ、文字



●織物ペンケース 1200円

通りコツコツと作り上げてきたものです。そこには、製作者の精一杯が詰まっているのです。それは、世界に二つとないデザインや風合いとなり、私たちに何かを訴えかけてきます。これら一つひとつがアートだと私たちは感じています。

ご来場いただいた皆さん、本当にありがとうございました。みなさまとの出会いを大切に「輪っか」を広げていきたいと思えます。

「そのhicobaeはふれあ...」

「ものづくり工房hicobae」は、今後もアート活動の拠点として、地域の方たちに発信していきます。子どもも大人も障害のある方も高齢の方も誰でも気軽に立ち寄ってください。この場所が、人と人、人と地域をつなぐ場所になれるように、チャレンジを続けていきます。



ケアハウスと学生寮の 合同避難訓練

桜堤ケアハウスは、「信陽舎学生寮」という長野県出身の男子学生が住んでいる寮と合築になっているのが特徴で、定期的に合同で避難訓練を行っています。特にケアハウスは、日曜日や夜間帯は警備員1名の体制になるので、その時間帯に起きた災害については一緒に住んでいる学生さんの手助けが不可欠です。

学生さんたちは、訓練の非常ベルが鳴るとすぐにケアハウスに来て、入居者の避難誘導の手助け、逃げ遅れた方がいないかの確認を行います。ケアハウスの職員もサポート役として参加し、どう動いたらよいか迷っている時、学生さんには声をかけるようにしています。5月の訓練では、避難訓練終了後に水消火器を用いた消火訓練も行いました。初めて消火器に触る貴重な体験になったようです。



消火訓練を行う学生さん

「もっとこうした方が良かった」といった感想が聞かれ、積極的に訓練に参加している様子が伺えました。ご入居者が安心して過ごせるように、今後も充実した避難訓練を開催していきたいと思えます。

(武蔵野市桜堤ケアハウス
間部 静夏)



食を通じて
地域とつながる

親子 おやつ時間

→地図
P.8-A

武蔵野福祉作業所内の「やさしい食堂七福」で、夏休みの午後の時間を親子で楽しんでいただく「親子おやつ時間」を期間限定で企画しました。7月24日から8月28日の毎週火曜日14時から16時、さまざまなデザートやカレー、ドリンクを自由に選び、自分だけのワンプレートをつくって親子ペアでおやつを楽しむイベントです。武蔵野市の育児支援団体「サニーママ武蔵野」にもご協力いただき、子育て中のお母さまのご意見も活かして実現しました。

この企画に先立ち、ミニトマトのコンポート、にんじんおからケーキ、かぼちゃプリン、芋もち、特製カレーなど、お子さまに喜んでいただけそうな

メニューを考えました。そのため、普段とは異なる調理工程や作業量の多さに、調理担当のご利用者が戸惑つこともありましたが、結果的に初めてのお客様が多数ご来店されるきっかけになり、ご利用者の自信にもつながりました。今回の経験を活かして、より多くの地域の皆さまに喜んでいただけるレストランとなるよう皆で力を合せていきたいと思えます。

(武蔵野福祉作業所食品チーム
柴田 美季)



選ぶ楽しさがある、親子で楽しめるメニュー



オフィスの通路は、車いすがすれ違えるように幅を広く確保している。曲がり角が視覚障がいのある社員にもわかりやすいように、床には色と材質の異なるカーペットを使用している。



通常のコピー機の横に、車いすの社員の高さに合わせたコピー機も併設

障がいのある社員同士で、サポートし合うことも。たとえば視覚障がいの社員が出張する時の誘導は聴覚障がいの社員が行い、会議では視覚障がいの社員が得意のタイピングを活かして要約筆記を行うなど補い合う関係を築いています。

また、障がい当事者の視点を活かし、障がい者に役立つ様々な情報をポータル

「障がいのある人はハンディがあっても、たくましくし意欲的です」。そう語るのは、NTTクラリティ株式会社代表取締役社長の半沢一也さん。社長に就任して以来、そのように感じているといいます。しかし、着任する前は「正直に言うと、普通に仕事をするのは難しいのでは」と思っていたとか。それがみごとに覆されたそうです。

クラリティという社名には「個々人のもち合わせている才能が宝石のように多彩に輝く」という意味

が込められています。つまり、障がいを「弱さ」と捉えるのではなく、その「強み」を活かした仕事で働きがいを感じてもらおう。同時に、当事者自らが障がいへの理解を社会に発信していく。そうすることでバリアのない豊かな社会の実現に貢献する一それがNTTクラリティの経営理念だといえます。

オフィスの設備環境などハード面の配慮・工夫はもちろん、ソフト面でも通院への配慮をした休暇制度や専門家による面談など合理的なサポートがされています。しかし、「障がい者はサポートを受ける側、健常者はサポートする側」という区別はしていません」と半沢さん。

障がいのある社員同士で、サポートし合うことも。たとえば視覚障がいの社員が出張する時の誘導は聴覚障がいの社員が行い、会議では視覚障がいの社員が得意のタイピングを活かして要約筆記を行うなど補い合う関係を築いています。

よりよい地域づくりをめざして活動している団体等を紹介します。

たて糸系 よこ糸系

NTTクラリティ株式会社

NTTクラリティ株式会社

NTTの特例子会社として平成16年に設立され、さまざまな障がいのある人を雇用。現在の社員数は381名（障がい者287名）。本社のほか足立区、横浜市、甲州市、札幌市、仙台市にも事業所を展開。（障がい者内訳：肢体不自由100名 視覚障がい26名 聴覚障がい8名 内部障がい41名 知的障がい53名 精神障がい59名）
（平成30年6月1日現在）
東京都武蔵野市緑町3-9-11
<http://www.ntt-claruty.co.jp/>

特例子会社制度とは

障害者の雇用促進のための制度。企業が障害者を雇用する際、特別の配慮をした子会社を設立し、それが認定要件を満たしている場合、特例として子会社の障害者従業員数を親会社の障害者雇用率に算定できる。



「社員一人ひとりが主役となって、働きがいをもってほしい」と語る社長の半沢一也さん



今年で3回目の参加となるNTTクラリティは、塩山ファクトリーで製作した素敵な手漉き紙の商品を販売。昨年参加した塩山ファクトリーの社員の方からは「自分たちが作ったメモ帳、ポストカードを販売できてとてもうれしかった！また参加したい」と感想をいただいています。

サイト「ゆうゆうゆう」で伝えたり、「心のバリアフリー研修」では講師役を務めたりも。アプリ開発やIT機器のユニバーサルデザイン開発に参画するなど多岐にわたって強みを発揮しています。

そしてもうひとつ、地域に根ざした活動にも取り組みたいと、市内の障害団体が開催している「あったかまつり」（今年は10月20日に開催）にも参加。社員の方が通っていた「障害者就労支援センターあいる」のスタッフを通じて、当法人にご紹介いただいたのがきっかけでした。取材の最後に半沢社長から「この仕事に巡り会えてよかった。教えられることがいっぱいあります」と語られた言葉が印象的でした。（聞き手 本部事務局 石田真緒）

えすぷれつそ

ちょっとひといき、心がほっと温まるスタッフの日常をお届け

二人三脚

ジョブアシストいんくる

梅本 佳奈子

一地図
P.8-B



振り返りの時間を大事にしています。
「面接練習の成果が発揮できましたね」

ジョブアシストいんくるでは、企業就労を目指す障害がある方に就労支援を行っています。先日、担当ご利用者の市役所実習や企業実習面談会に初めて同行してきました。実習や面談会に参加するといってもそれに向けての準備が数多くあり、事前面談やプロ

フィールカードの作成、当日の動きの確認、参加後の振り返り面談といった多くの工程を支援者と一緒に行います。今回、それらすべてが私もご利用者も初めての経験であったためスムーズにいかないこともありましたが、しかし、普段は口数の少ない方が面談会に向かう道中で、「今日は雨が降らなくてよかったですね」と自らコミュニケーションをとろうとしてみてください、趣味の話の多い方が「今年の漢字は個人的には実習を頑張りたいから『実』ですね」と教えてくださったりと、その方の普段の活動では見られなかった新たな一面を知ることができました。

『支援者と利用者の二人三脚』、その言葉がふと浮かんだ今回の経験。それは支援の根本にある、支援者とご利用者は対等であるということ。お互い気づかされることや勉強になることが多かった今回の経験を活かし、支援者もご利用者も共に成長していけたらと思います。

日常の幸せ、 ともに喜ぶことを 支援して

ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

樋口 加織

一地図
P.8-C



「わが家が一番」と、
幸せな笑顔とともに

平成28年末、私は母とともに父を自宅で看取りました。突然の介護生活、仕事と介護に追われた日々の中で、一人でしよい込み前のめりになっていた自分を、今でも忘れません。介護という現実には想像以上に厳しい日常で、その時の経験は、専門職として、家族の立場に立とうという自分の視点に、新たな気づきを加えました。

一時的に施設を利用して一人暮らしの男性への支援では、ご本人の「自宅で過ごしたい」という意向と、ご家族の「自分たちの生活、直面する介護」

への負担と不安が渦巻いていました。幾度も話し合い、「自宅での生活」が目標となった時、その方の笑顔と、ご家族だけが背負わなくてもよいという理解がそこにはありました。ご家族にとっての当たり前な幸せは、親の「笑顔」であることにも気づきました。

不安を抱えこんでいる時は、視野が狭くなりがちで、小さな壁が大きな壁に思えてしまうことがあります。そんな時、日常の幸せに気づき、共感することは、生活していく上で大きな原動力になると私は思います。

私自身、父のことでケアマネジャーに相談する場面が多くありました。ケアマネジャーからかけられた言葉は、仕事と介護で疲弊し、前のめりになっている私には時としてつらいものもありました。それは私自身のこれまでの家族支援が本当に適切なものであったか、改めて考える機会となりました。家族に寄り添う時間を大切に、相談に来られた方の幸せな日常を、ともに喜ぶように支援していくことの大切さに気づきました。

福々刻々

他者を理解すること

動物の知覚や行動の研究から、生き物にはそれぞれの独自の世界があることがわかっていきます。コウモリにはコウモリの、犬には犬の生物固有の局所的な世界(環世界)があると考えられています。人間は一般的には視覚優位で世界をとらえていると言われますが、総じて知覚のあり方によって世界の見え方は異なると考えられます。

時々新記録を達成した選手が「とても良い景色です」などと言いますが、大なり小なり、どんな人間も自分なりの景色(世界)を経験しているとも言えます。それは客観的な環境を字義通りに正確に把握したものではなく、自分の経験や想像力などその人にしかできない方法を用いて立ち上がってくるものと言えます。その人が背負ってきた歴史と時間の蓄積、そして環境との協調や対立を経たその人独自のものと考えられます。

私が若い頃に強い刺激を受けた横塚晃一氏(障害者自立生活運動のリーダー)は、自分にとっての最大の環境はこの脳性マヒの肉体であり、私の見る風景は健常者と言われる人とは別なのではないか、と言っています。そうであるとすれば、支

援にあたる人間に求められることは、(障害のある人など)支援を必要とする人の理解、それぞれが独自に創りあげている景色をしっかりと受け止めることだと言えます。それは手近な言葉を使えば相手基準でその人をわかろうとする営みです。そのためには自分の局所的な世界へのこだわりをいったん脇に置き、何が良いのかは自分とは離れたところにあるかもしれないと考えてみる姿勢がよい結果を導くのではないかと私は考えています。

(理事長 安藤真洋)

正規職員募集のお知らせ

～吉祥寺で働きませんか～

私たちと一緒に誰もが住みやすい街をつくりませんか?
「地域社会に役立つ」の理念のもと、誰もがこの街でその人らしい暮らしが送れるように支援を行っています。平成31年度の事業拡大に伴い、積極的に職員を採用します。詳しい募集要項は当法人採用HPをご覧ください。随時、施設見学説明会を行っています。ご希望の方は法人本部事務局採用担当までお問い合わせください。



法人本部事務局
電話：0422-54-7666
メール：musashino@fuku-musashino.or.jp
採用情報：
<https://fuku-musashino.or.jp/recruit/>

社会福祉法人武蔵野 案内図

各施設は、児童サービス、障害者サービス、高齢者サービスに色分けしています。また、A～Dは本誌に記事を掲載している施設です。



編集後記

ものづくり工房 h i c o b a e は facebook でイベントの告知などを行っています。ぜひ検索してみてください!(さ)